
窓

ヤマダゴロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

窓

【ZPDF】

N1013A

【作者名】

ヤマダ「ロウ

【あらすじ】

とある女性のお話。不思議話です。

窓を開けたら一面雪景色で、なんだかおかしくなった。

道理で寒いたはずだ。

あたしは顔にかかる髪を搔き上げると、再び室内に視線を戻した。
「どこかに出かけるのか？」

あたしは手にあるグロスをひいた。
「ちょっと約束があつて…。」

あなたは
「そうか」

と言つと、あたしの裾を引っ張つた。

「ふふ。なあに？いきなり…駄々をこねてる子供みたいじゃない。
なら子供でいい」

「寂しいの？」あたしはあなたの頭を撫でて、微笑んでやつた。
「大丈夫よ。すぐに帰つてくるわ。」

「でも…。」

掴んだあなたの手を振り払い、さつさと玄関を開けた。

「すぐに帰る。心配しないで」

あなたを見ると、心配そうにあたしを見ていた。

「行つて来ます」

あなたからの返事はない。

僕は一人、窓を眺めた。

ここには、見るべき対象が。

君がいない。

窓の外で、君は笑つて動いている。寂しくて泣きたくなつた。側にいて、僕を抱き締めてほしかつた。

「あなたはいい子ね」

と、あたしの母が彼の頭を撫でていた。

「どんなに待つても、あの子は帰つてこないのよ？」

それでも待つと、彼は首を振つた。

「辛いでしょう」

と、母は彼を抱きしめた。

蝉の鳴き声がする。

ごめんなさい……。

あたしはあなたとの約束を果たせなかつたようだ。

「こやあ

あたしのいない部屋であなたがそつと泣いていた。

end

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1013a/>

窓

2010年10月28日04時37分発行